

(様式1)

令和5年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 071	提案機関名 神奈川県 湘南家畜保健衛生所
要望問題名 エコフィードのさらなる利用推進	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 畜産業界では市販の配合飼料価格が高騰し続け、経営が大変厳しい。また、畜産農家における飼料としての食品残渣の利用は、生産コストを減少させるのみならず、持続可能な社会（SDGs）の構築や輸入飼料の代替としてCO2削減にも寄与するものとする。 畜産技術センターでは、これまでも様々な県内の食品残渣について、家畜飼料への利用の検討を進めてきており、データも蓄積されていると考える。 そこで、これまでの研究データを活かして、残渣の新たな組合せによる利用の検討や最近の県内食品残渣の状況等に合わせて、新たな残渣の利用等を含め、ご検討いただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	①実施 ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 地域資源の肉用牛への飼料化技術の確立 試験研究成績書(平成28年度) 地域資源を活用した豚肉の生産方法の検討 試験研究成績書(平成19年度～29年度) 地域資源を活用した鶏卵・鶏肉の生産方法の検討 試験研究成績書(平成28年度～令和2年度)		
対応の内容等	畜産技術センターでは、これまでも様々な県内の食品残さについて、家畜飼料等への利用の検討を進めており、データが蓄積されています。また、日本飼養標準においてエコフィードの栄養価や消化率が掲載されています。 要望にあります既存データを利用した残さについては、それぞれの経営体の実情に合わせて現地対応させていただきます。また、県と関係団体等で構成する協議会が取り組んでいる飼料高騰対策と連携し、新たな食品残さ等の情報収集を行い、活用できそうなものは、飼料成分分析や嗜好性、安全性等を検討したうえで給与試験等を実施していきます。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		